



## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。2015年の年頭に当たり一言ご挨拶申し上げます。

昨年は稀に見る自然災害と気候変動の年となり、自然の厳しさが記憶に刻み込まれました。一方青色LEDを発明された3人の日本人がノーベル物理学賞を受賞されたことは、とても嬉しいニュースでした。日本の電子材料技術が改めて世界で評価されたことは、蛍光体でこの分野に関わる当社としても大変誇らしいことと思います。当社においても、昨年4月のデンカイノベーションセンター本館竣工と研究体制の再編・強化を行い、国内外の様々なパートナーとのコラボレーションを進めています。「オープンイノベーション」を合言葉に、研究開発を軸とした交流をさらに活発化させ、大きな成果に繋がるように取り組んでまいります。

当社は今年5月に創立100年の大きな節目を迎えます。1915年5月のカーバイドと石灰窒素の生産スタートの後、この100年の間にいくつもの困難に遭遇し、それらを乗り越えて今日の当社があります。直近ではリーマンショックの後、経営環境の大きな変化に晒されました。このため当社では、一昨年4月に新成長戦略を定め諸施策を実行し、「攻めのデンカ」への転換を目指しています。かつて諸先輩が困難に立ち向かったように、われわれも次の100年の成長に向け、「チャレンジ&イノベーション」を常に意識し行動してまいりたいと思います。

昨年はこの諸施策に加え、新たに「株主還元方針」を定めるとともに、M&Aや先端技術導入などの戦略投資を、2017年までの4年間で500億円規模とすることを発表いたしました。そして今般、重要な経営基盤のひとつであるCR事業について、米国DuPont社の事業買収という大きな決断をいたしました。

業績向上と社会的責任の遂行は車の両輪であり、それぞれが企業の存立を支えるものです。社員一人ひとりが果たすべき社会的責任の重要性を見つめ直していきます。また当社はものづくり企業として、クリーンエネルギー源の確保や省エネルギーの推進を進め、地球環境への責任を強く意識して活動してまいります。

新年を迎えるにあたり、困難に真摯に向き合いながら、誠実に自らが歩むべき道を定め、挑戦し続けてきた諸先輩の功績を称えるとともに、次の100年に向けた第一歩を、力強く踏み出してまいりたいと思います。

平成27年1月1日

電気化学工業株式会社  
代表取締役社長 吉高紳介